

2021年6月15日発行

No.49

早稲田大学本庄高等学院通信



発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 [URL] https://www.waseda-honjo.jp

空気を共有する

学院長 半田 亨



皆さん、テレビ東京で毎週土曜日夜10時から放映されている美の巨人たちという番組をご存知ですか？絵画・工芸建築に限らず、

町並み絵本乗り物工業デザインなど様々なものを取り上げ、旅人と称する解説者がその魅力やエピソードを多面的に伝える番組です。素材は本当に多彩で、例えば昨年12月19日は童話スライム、1月16日は小田急線ロマンスカーを取り上げています。素材に合わせた演出にも、当初そのものに興味なかった人でも魅力を知ることができ、近年総入ラティエ番組化していると言われ、質の低下が指摘されるテレビ界において、数少ない知的で上品な番組の一つです。

この番組で4月24日に取り上げられたテーマが「早稲田大学大隈記念講堂」でした。内田有紀さんが旅人として案内をされました。最後のマイクを使わないうりやらの朗読の場面良かったです。私は何度もここに入りし、ステージ上で挨拶をする立場ではありませんが、これを見て改めてこの建築の奥深さを知りました。テレビ東京のサイトで、内容の確認ができますので、興味のある方はご覧下さい。

今回この番組を見てことさらに印象深く思えたのは、早稲田大学の建築物だからというよりも、その2週間前に入学式で使っていたからだろうと思います。

入学式のひと月前の3月、多くの議論を経て種々ホールで対面の卒業式を実施しました。2分割のやり方でしたが、その時の卒業生の様子を見るに、対面でも実施して良かったと思っています。入学式は、新入生の数が増えたことで、1度で実施しきれない状況が生まれました。現在の大隈講堂の定員制限内になんとかはいじまいたので、学院長のつまらない長い話を眠気と戦いながら聞き、田中総長から期待の言葉をいただき、外で記念写真を撮ることができました。1年生の皆さん、宇宙をモチーフとした天窓と照明や、様々な意匠を凝らした丸いステンドグラスなどに気がつきませんか？

この卒業式と入学式は、私に改めて「対面の良さとは何か？」について問いかけてました。2月27日の政府による突然の全国一斉休校要請に始まった2020年、本庄高等学院は1年間のおよそ半分がオンライン授業となりました。



皆さん、テレビ東京で毎週土曜日夜10時から放映されている美の巨人たちという番組をご存知ですか？絵画・工芸建築に限らず、町並み絵本乗り物工業デザインなど様々なものを取り上げ、旅人と称する解説者がその魅力やエピソードを多面的に伝える番組です。素材は本当に多彩で、例えば昨年12月19日は童話スライム、1月16日は小田急線ロマンスカーを取り上げています。素材に合わせた演出にも、当初そのものに興味なかった人でも魅力を知ることができ、近年総入ラティエ番組化していると言われ、質の低下が指摘されるテレビ界において、数少ない知的で上品な番組の一つです。

この度の卒業式、入学式で私は「はばく遠ざかっていった空気の共有を感じる」ことができた。卒業式における厳格な空気、入学式での大隈講堂の中の荘厳な空気、それらを生徒たちと共有できました。単に式を行ったという事実を作るだけなら、オンラインでも良かったかもしれない。その方が感染リスクも減らせるし、交通費や衣装代もかからなかったでしょう。卒業式や入学式で、疑問いかなかった生徒諸君そして保護者の方が喜んで下さいました。苦勞はあったけれども、対面でも実施して本当に良かったと思っております。そもそも、よく考えてみると、コロナ禍以前に対面という言葉は存在しても、意識的に使われることはほとんどなかったのではないかと思います。それが、新型コロナウイルス感染が始まって以来、オンラインの反対語になってしまっています。対面（たいめん）（ラグド）だ（と）い（い）ん（の）反（はん）対（たい）語（ご）は（は）？（と）考（こう）え（え）て（て）み（み）た（た）ら（ら）、し（し）ば（ば）考（こう）え（え）て（て）背（せい）面（めん）（はいめん）かな？と思（おも）いました。私（わたし）が（が）持（も）つ（つ）言（げん）葉（えい）の（の）認（にん）識（し）さ（さ）え（え）変（へ）え（え）る（る）と（と）、コ（こ）ロ（ろ）ナ（な）禍（わ）恐（おそ）る（る）べ（べ）し（し）い（い）で（で）す（す）。

この文章を書いている5月1日時点で、感染はわりじわりと全国的に拡大しています。変異種の拡大も取りざたされています。今後の学校運営の見通しは、不透明です。とはいえ、まったく得体的な知見も、決して恐れていた昨今の頃と異なり、これからは生徒教職員の健康は第一優先事項ですが、それを前提として「新型コロナウイルスの感染が拡大するのを防ぐ」という方向の舵取りが求められていると感じています。そのため、学校も努力致しますが、生徒保護者の方のご協力が必須です。改めて、ご協力をお願いする次第です。

寛容あつての多様性

保護者の会 会長 黛 昌智



第4波といわれる感染拡大が止まらず、まだまだ新型コロナウイルス（COVID-19）に翻弄される日々が続く中、早稲田大学本庄高等学院の日常の活動を支えていただいております教職員の皆様、学校関係者の皆様、心より敬意と感謝を申し上げます。

罹患された方々、不便、不安な渦中の皆さまにおかれましても、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い収束とご自愛を心よりお祈り申し上げます。

同じく、我が国にとって大きな危機であった10年前の東日本大震災の際、外国の人々から日本人が賞賛されたのは、このような極限の状況におかれていても節度を保ち、規律を守りながら互いのことを思いやっていた姿でした。多くの避難所では怒りの声もなく、けんかも起きていない。お年寄りや子どもをいたわり、進んで食べ物を分け合っていた。大きな災害の後には多くの国で必ず起きる商品の値上げや略奪もないといった姿です。このような日本人の忍耐力や結束力、他人に対する思いやりの心は素晴らしいことでした。

しかし、このコロナ禍の中で、大変残念ですが感染者や関係者に対する差別や嫌がらせが散見されます。インターネット上では、個人を特定しようとする心ない書き込みがいまだに散見されますし、感染者の周囲にいる人もまだまだ偏見にさらされることがあります。

このような反応は、自らが正常であろうとする欲求が、「異常なもの」、「自らの考えと異なるもの」を排除しようとする心理を引き起こし、生じるものでしょう。しかし、そのような反応が必要以上に大きくなると、相手を傷つけたり、社会から排除してしまいます。それは、お互いの人格と個性を尊重し合いながら共生する社

会、つまりこれから世界が向かうべき多様性を持った社会から外れることになってしまいます。

個人としていくら密集を避け、手洗いをしつかり行っても感染を避けられない場合もあります。仮に注意を欠いた行動があったとしても、その人の個人的な人格まで攻撃される理由にはなりません。「自分は我慢しているのに」という不満や社会の和を乱しているとの怒りなどの感情が背景にはあるのでしょうか、他人を私的に制裁するような行為は許されません。

コロナ対策は他人と距離を空けて行動することを求められますが、それが人と人との心の距離まで隔ててしまふことは避けなければなりません。多くの人が不寛容な振る舞いを控え、人同士のつながりを維持することができるか、という私たちの社会の強さがまさに今試されています。

この本庄高等学院がはぐくんできた「多様性」の中で生徒皆さんが自由に学院生活を過ごせることはとても誇るべき事です。その中で他人に対する寛容を忘れてはいけません。学院生それぞれのバックボーンが多様であることは、本学院の大きな強みです。生徒の皆さんが、勉強だけでなく、多様性の尊重が重視される現代社会に通用する人として、独り立ちして行く中で、自分の考え方をしっかりと持つだけでなく、他者への寛容な心を持ち、互いに尊重することの大切さを学んでいくことを願っております。

残念ながらこのコロナ禍で、早稲田大学本庄高等学院の保護者の会の活動も、制限を受けております。しかし、その状況下でも保護者の会として「出陣」を通じて情報発信の拡充など「変えるべきところ」は変えていく「気持ち」で保護者同士が情報交換出来る貴重な場を提供することが保護者の会の重要な役割だと思っております。保護者の会皆様におかれましては、ぜひ保護者の会の活動にも積極的に参加していただき、保護者同士の絆を保ちながら、お子さんの成長を見守っていきましょう。子供達が未来に希望を持って進めるように「手を離しても、目を離さず」私達と一緒に、早稲田大学本庄高等学院の応援団として活躍していきましょう。



このコラムのタイトルは「コーヒーブレイク」である。一般には、仕事中小休憩などを意味するが、学院では「二〇分休み（通称）コーヒー」のことをいう。この呼称は一九八二年の開校時に当時の教務主任が命名したもので、以来定着して今に至っている。学院生にとっては「コーヒーのみならず「早弁」もできるし、教員にとっても教材準備や質問対応に便利であり、本学院にとってなくてはならない時間といえる。

私はかつて学院に入学したとき、この二〇分休みに「長休み」などという野暮ったい呼称が与えられていたことを知って胸がときめいたことを覚えている。特別なものはそればかりではなかった。赤松林の美しい広大なキャンパス、高窓や勾配天井が多用された「コンクリート打ち」のモダンな旧校舎、自由奔放で専門家揃いの教師陣と個性豊かな仲間のたち。十五歳の私にとっては何もかもが新鮮で、「他とは違う」あらゆるものが、憧れの「学院生」になったことへの喜びと誇りを一層実感させたものであった（ちなみに学期集会もかつてアセンブリーと称されていたそうだが、こちらは定着しなかったようである）。

そもそも高等学院という名称が特別である。旧制高等学院が設置された際、早稲田大学の附属として既設の官立高等学校とは異なる特色をもった校風を興さんとして校の一字を改め、あえて学院としたこと由来する（「早稲田大学百年史」第三巻第六編第二章参照）。

官製と同じようなものを作っても面白くない。独自の学風があつてこそ、校歌にも歌われる「進取の精神 学の独立」を建学の本旨とする早稲田大学の教育にふさわしい。それが学院という名に込められた精神なのである。

教室室にいて、次々と舞い込んでくる案件の処理に追いつけられ、なかなか一息つく暇もない。しかし、独自のもの、新しいものを創出するには時間的・精神的な余裕が欠かせない。他とは違う、学院らしさを維持していくためには、「コープ」には一杯のコーヒーを飲むくらいのゆとりを持ちたいと思っている。

(十五期生)

魅力的な先生の紹介

#バトン魅力

大塚 未来

昨年から生徒と共に「墳Q」活動として学校の周りにある古墳を地中探査レーダーや宇宙線(宇宙から降り注ぐ自然放射線)を用いて透視しようというプロジェクトを行っています。

「墳Q」活動への想い

物理学と考古学のコラボレーションは以前から行われていますが(早稲田大学では地中探査レーダーによる古墳の調査でたくさん成果を上げています)また、世界的な研究でいえばクワ王のピラミッド内の空間が宇宙線による探査によって見つかっています!、学院生のパワーを動員していることはこのプロジェクトにおける最大の魅力です。教育的な意義のみならず、研究成果を出していく上で学院生は大きな役割を果たして欲しいと確信しています。

異分野がコラボレーションするとき一番大変なのはそれぞれの分野で文化や作法の違いが壁となってしまうことです。研究成果は各人の能力が最大限発揮できるように関係性ができているところに生まれてきます。

その点アカデミックに白紙状態の学院生には壁自体が存在しません。自由な学院生は楽しいと思えたことを頑張り、成果が出れば早速みんなに自慢し共有します。これは開かれた研究の理想形ではないでしょうか。

もちろん、彼らにとっても異分野融合研究は将来の糧となるに違いないと思ひ、学院生に共同研究者として参加してもらうことにしました。

活動概要

現在10人ほどの生徒が、月に一回程度勉強会、その他は古墳班、ハードウエア班、ソフトウェア班に分かれて活動しています。

古墳班は文献調査をしたり、学校のそばにある塚本山古墳群等を巡検しターゲット古墳を探しています。



ハードウエア班は研究者と共に宇宙線透視装置 OSECHIの開発を行っています。

ソフトウェア班は大大学院生と共にデータ解析やシミュレーションに必要なプログラムを行っています。

初号機を用いたテスト観測と結果の解析検討を済ませ、いよいよこれから古墳での測定というフェーズです! このプロジェクトは、高エネルギー加速器研究機構(KEK)、総合研究大学院大学、早大考古学研究室・考古学資料室、本庄市からも協力いただいております。

物理の教員が一生懸命古墳の話をしてる姿を、生徒が面白がって聞いてくれる様な包容力がこの学校の大きな魅力だと思ひます。そして学院生が将来懸け橋となつて様々な物事を巻き起こしてくれらることを楽しみにしています。

次は数学科峰真如先生にバトンを渡したいと思ひます!



オンライン講習で出会った人々

英語科 望月 眞帆

世界中で学習者と教育関係者が未知の状況に翻弄される2020年度に、私は1年間の特別研究期間という贅沢な時間をいただいた。研究の目標は英語の授業内で行うディスカッションの質向上を目指すことで、19年度に提出した研究計画には本学院の国内外の交流校での授業参観や担当教師からの聞き取りも含まれていた。また大学時代の恩師からの助言で、欧州の大学等がバックにある成人対象の英語教育機関に授業参観を相談したいと考えていた。

4月から現場を離れたが、海外どころか県内でも不急の外出自粛である。ひとたびネットに接続すると生徒の学びを止めないための同僚の悲壮なまでの努力が伝わってくるが、オフにすると妙に静かな時間となる。基礎文献を読みながら研究手段を模索していたところ、訪問したかった欧州ベースの英語教育機関が19週間のフルオンライン講習を実施することを知った。母語が英語でない成人に英語を教えるための講習だ。英語教師希望者にも現職教員の再研修としても役に立つとある。参観者ではなく当事者になつてのフィールドワークとみなし、自分の知識技能もアップデートしながら研究の目標に向かおうと考えて、受付期間終了直前に受講を申し込んだ。幸い受講資格試験に合格でき、12人のクラスの一員となった。

この講習の内容と先生たちの指導法はどの国でも同一なので、Zoom教育実習やミーティングの時刻が受講の地域選定の決め手になる。日本時間で提供されるこのクラスに集まった12人は日本各地とオーストラリア、南アジアに散らばっている。指導の先生は2人で、1人は関西、もう1人はオーストラリアにいる。英語が母語でない受講生は私を含めて5人。講座の紹介にあつた通り、転職したい人、移住して就職したい人、勤務先の学校の指示で研修を受ける人など様々だ。初回のZoomミーティングはぎこちなかったが、先生が指定するペア等で課題に取り組みうちに不思議なほど(何でも)称賛、励まし、助言、ばやきなど(と言える)仲になつていった。

毎週2課ずつ配信されるオンデマンド授業は、「言葉」を教えるとは、学ぶ人に対してどんな行為をすることか、授業というものを根本から問い直す内容だ。『Harlow』の意味をどうわかってもらおうかという問いに対し、日本語で説明する以外の方法を考えつかない自分を知った。『Harlow』(読み書きの力)についての課は、母語が右から左に書かれる言語である学習者が、左から右方向に書かれる英語に接して直面する苦勞の事例から始まり、多文化教育の困難さの一端(本当にわすれが)を垣間見た気がした。自分の研究テーマを考えながら勉強を続けるうちに、学院での授業中に生徒のみならずがふと口にする言葉に、より良いディスカッションへのアプローチのヒントが含まれていると思えるようになってきた。

11週目からの8週間は、毎週土日がZoomを使ったライブ授業実習。有志で集まってくれた学生さんも日本・南米・大洋州にいて、「自分は非英語圏からの移民。孫と英語で話したい」「話せるが、文法がだめ」と言われて就職試験落ちた」「コロナ禍が過ぎたら英語力アップになりたい」と話してくれた。「A」や「B」などの指標を用いる(OER)(欧州言語共通参照枠)には自分の伸ばしたい技能と到達レベルを学習者自身が選択するという理念がベースにあるが、「このような切実な個々の望みの集積がOERを生んだのかと改めて感じた。

8回の授業のうち7回は「合格しない」と修了証はもらえない。合格の諸基準は対面の実習と同一なので、授業後の反省会では「Zoomは難しい。対面ならもっと上手くできたと思うんですが」という言葉も出る。先生たちはどんなことも真剣に聴いてはくれるが、「対面授業でもね」「この教室の設備は古すぎる。新しすぎる」という不満は出るものです。甘くはない。受講生仲間には自発的にZoom事前練習会をウィークデイの夜に組むようになった。

1回不合格になり追い込まれた数人私も()を含めて全員修了の見通しがつき、最終日には身を粉にして指導してくれた2人の先生に感謝をこめて、「ジングルベル」の替え歌を受講生全員でプレゼントした。この原稿に添えた写真は、Zoomの中で「♪ジングルベル、課題が増える、白髪も増える、楽しさも増える、(原文は英語)と、皆で一緒に歌っているところです。



グエン・ヤーギーさんのこと

学院長 半田 亨

学院生の皆さん、11月14日〜3月10日の間、一緒に学院生活を送った、ベトナムからの留学生グエン・ヤーギーさんをご存知ですか?

彼女は、本来5月に来校し、3月までの10か月間、本庄学院で学院生活を送る予定でした。それが、コロナ禍の中、来日が9月に延期され、さらに7月からの第二波により11月に再延期されての来日でした。

オーストラリアのシンクタンクの新型コロナ対応力ランキングによるベトナムは世界2位です。感染封じ込めに成功していた国でした(現在は、少しずつ感染者が増えていきます)。そのような国から異国で学ぶことへの不安は大きかったと思います。加えて、なかなか渡航の許可が出ないことで、留学をあきらめた事例も多いと想像されます。

しかし、彼女は日本で学びたい意欲を最後まであきらめず、2週間のホテル隔離を経て11月14日に本庄学院に来ることができました。

梓寮で生活し、1年B組(当時)で勉強しました。このまま順調に残りの学院生活を送れると思つたのもつかの間、1月22日から再度オンライン授業になつてしまいました。学年末試験前一週間登校期間がありましたが、そのまま急遽3月11日の帰国となり、3月10日に本庄学院を離れることとなりました。終業式が対面で実施できなかったため、お別れメッセージも録画で流さざるを得ませんでした。

彼女は控えめな性格のため、聞いても何も言いませんでしたが、心の中では都内やドイツ・ニールランドへ行くことも楽しみにしていたと思ひます。また、滞在中に筑波大学に留学しているお姉さんにも会えませんでした。本庄の外へまったく出ることができず、本当に残念なことです。少しだけ救われたのは、年末に地元の複数の家庭からホストファミリーの申し出があり、日本の家庭の様子や年末の日本の情景を経験することができたことです。私もクリスマスとお正月ホストファミリーを務めました。添付の写真は草津温泉の旅館での写真、日光東照宮の前での写真です。



日本が好きで、どうしても日本で学びたいという強い意志で本庄学院にいらしたヤーギーさんのことを伝えたくてこの文章を書きました。

教育プログラム報告

課外講義

「これがサイエンスだ！」のオンライン実施について
(2020年12月~2021年5月)

2020年度

- これがサイエンスだ！Advanced~純粋数学編~
「合同ゼータ関数のリーマン予想」
講師:数学科 根本裕介教諭
日時:3/18(木) ZOOM開催
- これがサイエンスだ！Advanced~応用数学編~
「数学科講師陣の研究紹介」
「非線形微分方程式の解構造保存離散化とその応用」
講師:数学科 堀綾子講師
「アインシュタイン方程式の数値計算におけるスキーム評価方法」
講師:数学科 佐藤慧講師
日時:共に3/30(火) ZOOM開催

スキーム構築の概略



アインシュタイン方程式

この計量テンソルは時空の幾何学的性質を表してくれる。その時空内の物質の様子を表すテンソルを $T_{\mu\nu}$ としよう。このとき、 $\nabla_\mu T^{\mu\nu} = 0$ の間にどのような関係があるのか、それを満たすような方程式をアインシュタインが発見し、この方程式をアインシュタイン方程式(重力場の方程式)と呼ぶ。

アインシュタイン方程式

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}g_{\mu\nu}R = \frac{8\pi G}{c^4}T_{\mu\nu}$$

c : 光速度、 G : 万有引力定数
 $R_{\mu\nu}$: リッツ曲率テンソル、 R : スカラー曲率
 $R_{\mu\nu}$, $g_{\mu\nu}$ は計量 $g_{\mu\nu}$ の微分を用いて構成されるテンソル

2021年度

- これがサイエンスだ！オンデマンド「判断のための数学—統計学のススメ—」
講師:数学科 峰真如教諭
- 第1回「仮説検定」とは何か—対話形式で学ぶ—
- 第2回Excelで学ぶ正規分布
- 第3回Excelで学ぶカイ二乗分布
- 第4回Excelで学ぶt分布
- 第5回Excelで学ぶF分布
- 第6回母比率の差の検定
- 第7回母平均の差の検定
- 第8回適合度検定
- 第9回独立性の検定
- 第10回一元配置分散分析
- 第11回Excelによる単回帰分析
- 第12回Excelによる重回帰分析
- 第13回Excelで学ぶ正規分布(番外編・発展)

◆バドミントン部(男女)

学校総合体育大会北部地区予選(5月10日~13日)
 男子シングルス 1位富田成貴、2位石川大翔、
 ベスト16位 種田義保、県シード 波幸平
 女子シングルス 3位黒川美咲、4位小島紗季、
 ベスト8位 福田悠、県シード太田咲
 男子ダブルス ベスト16位富田成貴・種田義保ペア、
 同大橋和真・小池悠羽ペア、県シード 波幸平・
 石川大翔ペア
 女子ダブルス 2位福田悠・小島紗季ペア、県シード
 太田咲・黒川美咲ペア
 以上のメンバーが6月の県大会に出場します！

◆硬式テニス部(男女)

関東予選大会埼玉県北部地区予選
 (4月16日~19日、24日 県大会出場分)
 女子シングルス 準優勝 吉新なつき、3位 長谷川柚
 希、8位 大竹媛子、14位 長谷川歩香、25位 板野陽香
 男子シングルス 優勝 野田一成、3位 神谷優希、
 4位 三森康平、5位 湯原悠登 10位 戸倉甲陽
 女子ダブルス 準優勝 長谷川(柚)・大竹、5位 吉新・
 高橋、9位 山岸・赤松
 男子ダブルス 優勝 野田・湯原、3位 神谷・栗本、
 5位 三森・平山
 関東予選大会全国団体戦(5月15日~16日)
 女子 5位

生徒達の活躍

◆女子バスケットボール部

埼玉県北部支部選手権大会
 5月1日 会場:熊谷商業
 VS本庄東 〇77-45
 5月3日 会場:シルクドーム
 VS本庄第一〇78-57
 関東大会県予選
 5月14日 会場:上尾運動公園体育館
 VS聖望学園 ×59-81

◆ラグビー部

新人戦県北大会
 1回戦12月20日(日)
 松山15-10早大本庄
 関東大会県予選
 1回戦4月18日(日)
 草加19-0早大本庄
 国体大会県北予選
 1回戦5月1日(土)
 早大本庄21-0進修館
 ◆このところ公式戦でなかなかコンスタントに勝てない状態が続いておりますが、今は雌伏の時と考えて、秋の雄飛を目指してじっくり練習に取り組んでいきたいと思います。ところで一年生の皆さん、早大本庄ラグビー部は高校からラグビーを始めた初心者がほとんどです。運動経験は問いませんので、マネージャー希望者も含めて、少しでも興味のある人は是非にグラウンドに遊びに来て下さい。皆で待っています

◆ソフトテニス部(男子)

関東大会県予選会北部支部大会個人戦
 (4月23日・25日、@熊谷さくら運動公園・東松山市宮庭球場)
 優勝:北原辰徳(3E)・矢島朋貴(3A)ペア
 ※北部支部の大会で3連覇を果たしました。
 関東大会埼玉県予選会個人戦
 (5月3日@狭山智光山公園)
 ベスト16:北原・矢島ペア
 ※6月6日に宇都宮市で行われる関東大会への出場を決めました。
 関東大会埼玉県予選会団体戦
 (5月5日@くまがやドーム、
 5月8日@熊谷さくら運動公園)
 ベスト16:2回戦③-0三郷北、
 3回戦 ②-0白岡、4回戦1-②本庄東。

◆ソフトテニス部(女子)

関東大会 埼玉県予選会 個人戦
 (5月2日・6日@熊谷さくら運動公園)
 ベスト8:岡本百葉(3F)・今泉菜々(3G)ペア
 ※6月5日に宇都宮市で行われる関東大会、
 7月17日・18日に前橋市で行われる東日本選手権大会(一般女子の部)への出場を決めました。
 関東大会 埼玉県予選会 団体戦
 (5月4日@くまがやドーム、
 5月8日@東松山市宮庭球場)
 ベスト16:2回戦②-1大宮南、3回戦②-0伊奈学園、4回戦1-2川越西。
 関東ソフトテニス選手権大会(一般女子の部)
 (5月29日@くまがやドーム)
 3回戦進出:岡本・今泉ペア

◆硬式野球部

春季北部地区予選
 1回戦 4月11日(日)於本庄市民球場
 対本庄第一高校 7-0(7回コールド)
 代表決定戦 4月15日(木)於熊谷公園球場
 対熊谷西高校 6-3
 春季県大会
 2回戦 4月25日(日)於熊谷公園球場
 対川越東高校 8-1(8回コールド)
 3回戦 4月30日(金) 於所沢航空公園野球場
 対埼玉栄高校 0-5

春季県大会ベスト16という結果となりました(本庄学院史上タイ記録)。球場での観戦では、拍手のみの応援となりましたが、県大会では応援部のみなさまのお力添えをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

◆自転車部

関東高等学校自転車競技大会県予選会
 5/10 群馬サイクルスポーツセンター
 男子ロードレース
 1H 細谷 幹大 13位
 3F 櫻井 健 40位
 3H 飯塚 智也 44位
 細谷は自転車部として10年ぶりとなる関東大会出場が決定しました。

5/23 埼玉車連加須タイムトライアルロードレース
 高校生登録者 細谷 幹大(1H) 5位
 (記録:28分26秒30)



◆陸上部

昨年度はコロナ禍で学校総体が開催されずチーム一同悔しい思いをしましたが、本年度はまずは埼玉県北部地区予選会、続く埼玉県大会が開催され、様々な種目で陸上部員が活躍しました。男子200mでは3年生の高田さんが県4位となり、北関東大会出場を決め、チームの士気を更に高めてくれました。また今年は多くの新入部員が来てくれたので、続くコロナ禍の中制限された練習環境の中ではありますが、大所帯で楽しく切磋琢磨しながら日々練習に励んでいます！

県北大会(4/23~25熊谷)結果

- 男子
- 100m 優勝 滝澤 悠貴(1) 11" 25 風-2.4m
 - 2位 森 輝星(1) 11" 76 風-2.4m
 - 200m 2位 森田 陽樹(2) 22" 18 風+1.0m
 - 400m 2位 森田 陽樹(2) 49" 43
 - 800m 5位 阿久澤 侑佑(2) 2' 01" 41
 - 1500m 4位 倉本 倫太郎(1) 4' 06" 66
 - 6位 佐藤 広人(1) 4' 07" 37
 - 5000m 4位 佐藤 広人(1) 15' 37" 51
 - 6位 倉本 倫太郎(1) 16' 07" 08
 - 8位 酒巻 輝希(2) 16' 15" 15
 - 400mハードル 3位 竹森 悠河(2) 1' 00" 06
 - 3000m障害 4位 吉岡 龍一(1) 10' 02" 65
 - 5位 山田 遼大(2) 10' 09" 39
 - 走高跳 5位 播 昌樹(2) 1m80
 - 走幅跳 5位 齊藤 拓巳(2) 6m07 風-0.7m
 - やり投げ 優勝 鈴木 陵馬(3) 47m63
 - 8位 中澤 駿吾(3) 35m31
 - 4x400mリレー 3位 早大本庄(竹森-森田-吉良-鈴木) 3' 28" 09
 - 学校対抗
 トラック 3位 早大本庄 65点
 フィールド 8位 早大本庄 17点
 総合 3位 早大本庄 82点

女子

- 100m 4位 鈴木 彩夏(1) 13" 46 風-3.3m
- 5位 小林 清香(3) 13" 55 風-3.3m
- 100mハードル 5位 小野寺 彩(2) 17" 45
- 5000m競歩 6位 牧 依瑠香(3) 27' 59" 44
- 走高跳 3位 川瀬 仁香(1) 1m53
- 4x100mリレー 5位 早大本庄(稲森-小林-鈴木-小野寺) 52" 11
- 学校対抗
 トラック 8位 早大本庄 20点
 (その他県大会出場者、自己ベスト更新者多数)
- 県大会(5/9~12熊谷)結果
- 男子
 200m 4位 高田 和(3) 21" 94
 ※北関東大会出場
 400m 8位 森田 陽樹(2) 50" 50
- 女子
 5000m競歩 7位 牧 依瑠香(3) 28' 17" 92



◇囲碁将棋部

全国高校総文祭囲碁部門埼玉県代表候補者最終選考会
 5/9(日)滑川総合高校
 1年吉田泰喜 男子優勝
 2年越後美波 女子準優勝
 (8月に和歌山県で行われる全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦へ出場決定)



第17回日本物理学会Jr.セッションで3年松本和樹さんが奨励賞を受賞

第17回日本物理学会Jr.セッション(2021.3.13)で 松本和樹さんが、奨励賞を受賞しました。研究テーマは「敵対的生成ネットワークによる配色生成における色空間の比較」です。

3年關日葵さんが電気学会U-21学生研究発表会で奨励賞受賞

3月13日(土)にオンラインで開催された、令和3年電気学会U-21学生研究発表会で、3年の關日葵さんが、研究タイトル「微生物燃料電池の製作」の発表で、奨励賞を受賞しました(発表数52本、奨励賞6本、優秀賞9本、最優秀賞1本)。これは電気学会が中高大学生の電気に関する研究に対して開催している研究発表イベントです。
 關さんは、河川の汚泥に生息するバクテリアを発電に用いる際に、これまで使われている高価なカーボンフェルトを用いず、正極に炭を用いることで、これまでより廉価な発電を可能にしました。発電の際の泥の温度が、37度~41.5度あたりが最も発電効率がいいことも1年間の実験でわかり、仮に実用化されると、特に河川汚染に悩んでいる熱帯の河川環境改善と持続可能なエネルギー確保につながると期待されます。



河川研究班の活動

河川研究班は、2009年より本庄市内河川環境保護活動を継続しています。2012年には本庄市立藤田小学校と連携活動を開始し、年2回の合同河川調査と年間の総合学習講師を務めています。また、河川環境や水生生物に関する全国シンポジウムや学会の高校生部門等で成果発表をされており、埼玉県・河川環境に関する全国・関東大会等で表彰を受けています。昨年度・今年度の活動は中谷医工財団の補助の元で活動を行っています。
 12月27日(日)中谷医工財団成果発表会(東日本、オンライン)で、成果発表を行いました。この様子は、日経サイエンス5月号で紹介されています。
 4月6日(火)藤田小・本庄早稲田国際リサーチパーク・本庄学院の間で、今年度のスケジュールを検討しました。
 5月1日(土)、埼玉県魚類研究会代表金澤先生ご指導の下、藤田小児童に河川での安全、生物採取技術、魚類の同定などを指導するための、事前訓練を本庄学院裏の小山川で実施しました。
 この日参加した14名は、川での安全な歩き方、危険な場所の察知の仕方、たも網の使い方、魚類の同定のコツ、外来種に関する知識を確認しました。
 また、今年度は広く本庄市民の方に河川環境保護意識を持ってもらうべく、川の生物図鑑を作成中です。
 6月の合同河川調査が楽しみです。感染状況も良くありませんが、なんとか実施できることを祈っています。

